

information catch

横浜ビジネスグランプリ2011

プロバイオインタショナルが最優秀賞を受賞

横浜企業経営支援財団が主催する「横浜ビジネスグランプリ2011」(<http://www.akinaisouken.jp/release/ybg20110131.pdf>)の最終審査が1月29日、ランドマークホール（横浜市西区）で開催された。

このコンテストは、横浜で1年以内に起業を検討もしくは既存とは別の新規事業を起ころうとしている企業と、横浜で起業後7年未満の企業を応募の対象にした国内最大級のビジネスプランコンテストである。

今回は応募総数434件（ベンチャー部門232件、ソーシャル部門90件、アンダー22部門112件）の中から書類審査とプレゼンテーション審査を通過した11組（ベンチャー部門5件、ソーシャル部門3件、アンダー22部門3件）による最終審査が行われた。ベンチャー部門はプロバイオインタショナル代表取締役の下手正輔氏、ソーシャル部門はえと菜園代表取締役の小島希世子氏、アンダー22部門は慶応義塾大学理工学部の金山晴紀氏がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

プロバイオインタショナルは、プロバイオティクス飼料肥育による安心・安全な食肉づくりについて発表。鶏や豚などの家畜に対して独自に開発した植物性乳酸菌を混合した飼料を与え、抗菌剤や農薬を使わない安心・安全な有機食肉を作り上げたことが評価された。

ソーシャル部門のえと菜園は、ホームレ



プロバイオインタショナル
取締役の根本広昌氏（右側）

スの職と農をつなぐ「レンタル家庭菜園」で最優秀賞を受賞。ホームレスに農薬とお金をかけない野菜作りを指導し雇用の場を創出するほか、勤務評価の良いスタッフは農家に受け入れてもらう仕組みづくりを進めている。

アンダー22部門で最優秀賞に輝いた金山氏は「JAPAN MANGA」について発表。日本の同人誌などを翻訳し、電子書籍として世界に向けて販売するグローバルなポータルサイトビジネスを説明した。

横浜ビジネスグランプリはファイナルに進出した企業に対し、横浜市の創業ベンチャー促進資金の融資申し込み資格が付与されるなど、創造性やチャレンジ精神に富んだ中小・ベンチャー企業のバックアップを続けている。